

会 議 録

会議の名称	第6回小金井市児童発達支援センター運営協議会		
事務局	福祉保健部自立生活支援課		
開催日時	令和5年8月16日(水) 午前10時から		
開催場所	小金井市役所本庁舎3階 第1会議室		
出席者	委員	小川 順弘 会長 岩田 和香 委員 高階 美羽 委員 森田 義雄 委員 佐々木 由佳 委員 吉見 絵里 委員	衣目川 有里 委員 黒澤 佳枝 委員 西尾 崇 委員
	事務局	福祉保健部長 自立生活支援課長 自立生活支援課障害福祉係長 自立生活支援課障害福祉係主任 児童発達支援センター長 児童発達支援センター職員 児童発達支援センター職員 児童発達支援センター職員	大澤 秀典 天野 文隆 大久保 圭祐 加藤 寛子 佐々木 宣子 岸野 奈美 宇佐見 翠 山岡 佑美
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
会議次第	1 開会 2 報告事項 (1) 会議録・業務評価報告書のホームページ閲覧数(事務局) (2) 令和5年7月までの実績報告について (3) 令和5年度講演会・研修会の実施状況について (4) 「ペアレントトレーニングおひさしぶりフォローアップ会」について (5) 巡回相談の実施状況について (6) 記録の入れ間違いについて 3 今後の開催日程について 4 その他 5 閉会		

◎**会長** おはようございます。ただいまより、第6回小金井市児童発達支援センター運営協議会を開催いたします。

本日の欠席委員等についての報告、事務局のほうからお願いいたします。

◎**事務局** 事務局です。それでは、事務局より欠席委員の報告をいたします。本日は3名の委員より欠席の連絡が入っております。

小金井市児童発達支援センター運営協議会規則第6条におきまして、協議会は委員の2分の1以上の者の出席がなければ会議を開催することができないと規定されておりますが、12人中9人の出席がありますので、会議は成立することを御報告いたします。

◎**会長** ありがとうございます。

それでは、会議に先立ちまして、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

◎**事務局** 配付資料の確認をさせていただきます。

本日、机上に配付しております資料は、資料1、児童発達支援センター運営協議会への実績報告（令和5年7月）、資料2-1、令和5年度講演会・研修会予定・実施状況、資料2-2、支援者研修（7月19日開催）の受講者アンケートより（抜粋）、資料3、「ペアレントトレーニングおひさしぶりフォローアップ会」について、資料4、令和5年度巡回相談の実施状況について、参考配布、第5回運営協議会意見・提案シート、以上となります。不足しているものがございましたら挙手をお願いいたします。

◎**会長** 資料はよろしいでしょうか。

それでは、次第に従いまして、進行させていただきます。次第2、報告事項についての説明をお願いいたします。

◎**事務局** 事務局から報告いたします。

今回の報告事項は6点でございます。

1点目は会議録・業務評価報告書のホームページ閲覧数、2点目は、令和5年7月までの実績報告について、3点目は、令和5年度講演会・研修会の実施状況について、4点目、「ペアレントトレーニングおひさしぶりフォローアップ会」について、5点目、巡回相談の実施状況について、6点目は、記録の入れ間違いについてとなっております。

◎**会長** ありがとうございます。

それでは、(1) 会議録・業務評価報告書のホームページ閲覧数についての説明をお願いいたします。

◎**事務局** 事務局から説明いたします。

前回の運営協議会におきまして、業務評価報告書の閲覧数について御質問が上がったことから、ホームページの運営管理を所管しております広報秘書課へ確認いたしましたので、御報告いたします。

閲覧数は月単位での抽出が可能ということでしたので、直近で抽出可能であった令和5年6月の閲覧状況について確認した結果、小金井市児童発達支援センター運営協議会会議録・業務

評価報告書のページの閲覧数は70件で、令和4年度業務評価報告書のダウンロード数は8件となっておりまして、会議録のページを閲覧した方のうち、11.5%の方が業務評価報告書を見ているという状況でした。

参考に、令和3年度の業務評価報告書のダウンロード数は8件、令和2年度の業務評価報告書のダウンロード数は17件となっております。

なお、同じく6月の市のホームページ全体の総アクセス数は、706,379件となっております。

御報告は以上です。

◎**会長** ありがとうございます。

御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

ないようですので、次にいきたいと思います。

続きまして、(2)令和5年7月までの実績報告についての説明をお願いいたします。

◎**センター長** 報告させていただきます。本日は、私と児童発達支援管理責任者、相談支援専門員2名で出席させていただいております。お忙しい中、どうもありがとうございます。

それでは、令和5年7月までの実績報告をさせていただきます。

資料1を御覧ください。令和5年7月までは、2つの表にこれまでどおり相談と実績を上げさせていただいております。

初回の相談となる①の一般相談は75件でした。令和4年度は56件でしたので、30%程度増えております。

②の専門相談は343件でした。令和4年度は248件でしたので、こちらも30%強増えております。増加傾向とはなっておりますが、御都合を伺いながらできるだけ早めの日程で相談を調整しております。

次に、中ほどの④から⑨について御報告いたします。

④の児童発達支援、通園は定員21名、⑤の放課後等デイサービスは、各曜日10名の合計50名で新年度をスタートし、5月以降の変更はございませんでした。

⑥の保育所等訪問支援事業は、5月より3名、その後、1名増えて4名の方が利用されています。

⑦の親子通園事業は徐々に増え、現在、5グループ16名で実施しております。申込み状況に応じて、2グループ増やすことができるよう準備しております。

⑧の外来訓練事業は149名です。親子通園事業や外来訓練事業は、発熱等の体調不良が多くなる時期を何度か繰り返しております。新型コロナウイルスに限らず、夏風邪の影響等あるようです。また、前回5月の運営協議会で、感染症対策として、消毒、換気時間を10分確保する対応について検討中とお伝えいたしましたが、その後、感染状況や地域の状況から、6月19日より以前の時間設定に戻しておりますので、御報告いたします。

⑨の巡回相談事業、その他の研修・講演会等につきましては、予定どおり進めております。

後ほど詳しく御報告いたします。

令和5年7月までの実績報告は以上となります。よろしく願いいたします。

◎**会長** ありがとうございます。

それでは、この資料につきまして、御意見、御質問ございましたらお願いいたします。

ないようですので、私のほうから1件、よろしいでしょうか。

前年度の同時期と比べまして、今回3割増、全体が56、今回は75件なんですけれども、それぞれの月で、例えば、相談支援事業、一般のほうなんですけれども、例えば、去年ですと4月が12、5月が14、6月が14、7月が16件だったんですけど、これを見たりすると、例えば6月なんか、今年度、すごく多くなっていたりするんですけど、これはどのような傾向があったのかなということ。

それからもう一つは、毎回これは新規の方がおいでになっているのか、月ごと、継続的な方というのはいるのかどうか、この辺のところを教えてください。

◎**センター長** 御質問ついて、お答えいたします。

まず新規の相談、毎回、一般相談が全くの新規かどうかという点なんですけれども、こちらの一般相談というのは、まず、初めていらした方だけをカウントさせていただいております。ですので、過去、相談をした経験のある方に関しては、たとえそれが1年後、2年後であっても、専門相談のほうでカウントさせていただいております。その間隔は、相談内容に応じて様々です。18歳までの相談ですので、数年ぶりでお問合せいただいて、御予約をお取りさせていただくということもあります。

月ごとの相談件数についてなんですけど、正直なところ、何の傾向なのかというところは大変難しいと思っております。この数年、コロナ禍の影響もあって、少し感染状況が落ち着いたなというところで増えたかなですとか、あと、学校ですとか保育園さん、幼稚園さんですので、面談ですとか、相談の後なのかというタイミングで増えた実感はあるんですけど、今回、御指摘いただいたように6月がはっきりと増えているような状況なんですけれども、6月というと、少し難しい時期かなとは思いますが、偶然、今回はその時期が増えただけなのではないか、ちょっと様子を見てみないと分からないなとは思っております。

ただ、新型コロナの影響もとても大きい数年間だったと思いますので、相談してみようと思ったときに、少し動きやすくなった可能性はあるかなとは思っております。

◎**会長** ありがとうございます。

◎**委員** いいですか。すみません、ちょっと今の件で質問。

傾向とかは、把握するのはなかなか難しいとは思いますが、今現在、前年3割増ということで、漠然とした形でもいいので、どういった内容の相談とか、どういった世代の方とかがいらっしゃるのかなというのが気になりました。

◎**センター長** ありがとうございます。

相談の年齢としては、きりは18歳までの相談が対象ですが、乳児さん、幼児さんが多く、

学齢のほうが少ない傾向はあります。

相談の内容は様々でして、言葉がゆっくりであるですとか、かんしゃくが強いですとか、園や学校への行き渋りがあるですとか、発達や、生活といってもいいかもしれないんですけど、そこに、やはり困り感があるというところではあります。

ただ、やはりこちらが発達支援センターですので、皆さんどこかで、そのお子さんにとっての育て方とか、そういうことよりは、お子さん自身に何か心配があるのかなというところを相談したい気持ちで申し込まれているとは思いますが。子育て相談というところだと、保健センターですとか、子ども家庭支援センターのほうでまず一度受け止めていただいて、そこからきりりを知るですとか、あと、幼稚園さん、保育園さんでお話をされた上で、やはり、きりりというところで、かんしゃくとか、少し動きが多いなとか、そういうことでも相談しているみたいだよというお話をさせていただいてからいらしているという方もいらっしゃいます。

あとは発音のこと等でもいらっしゃる方もいます。吃音ですとか発音。

以上です。

◎委員 ありがとうございます。

◎会長 ありがとうございました。

逆に、私のほうから委員にお聞きしたいんですけれども、障害者地域自立支援センターでお力添えいただいているわけなんですけれども、相談というのは、やはり似たような傾向がありますか。

◎委員 そうですね。基本的に相談といっても、最近の傾向として我々がすごく感じるのが、この場で言うのはあれですけど、例えば8月末に、高次脳に関する研修会を企画しているんですね。そこに関する質問が非常に多かったですとか、あとはもちろん、お子さん関連も来たりもしますし、生活そのものに困っている、あとはどこに行ったらいいかわからない。乳児か幼児というのは、実際あまり来ないんですけれども、これから私たちはどうしたらいいんでしょうという、やっぱり生活の困りごとという意味では全く同じです。

去年との対比でどれぐらいというのは、ごめんなさい、今、自分の手元にはないんですけれども、困りごと、例えば高次脳の件であるとかは、やっぱり我々がふだん仕事をしてても見落としているところにニーズがあるんだなというのは、支援センターの中での会議で話し合ったことです。

◎会長 ありがとうございます。

それでは、ほかにございますか。

なければ、続きまして、(3)に行きます。令和5年度講演会・研修会の実施状況についての説明をお願いいたします。

◎事務局 それでは、資料2-1を御覧ください。令和5年度、講演会・研修会予定実施状況について御報告いたします。

今年度は、内容に応じて、対面とオンラインの利点を生かして、より効果的な実施を心がけ

ております。ペアレントトレーニングですが、募集人員をコロナの流行前の人数である6名に増やして実施しております。土曜日の短縮版は、過去2年実施いたしましたが、参加希望者が少なかったため、今年度は実施せず、新たに、おひさしぶりフォローアップ会を実施いたします。

まず、一般市民向けの講演会ですが、9月12日には、オンラインで発達や特性に合った暮らし方・学び方について、ICTの活用方法なども御紹介いただきながら、森脇愛子先生による講演を予定しております。

そのほか、きらりの理学療法士である中山雅和先生による、体の育ちと遊びに関する講演を12月頃、録画配信で予定しております。

次に、支援者向けの研修です。

1つ目は、7月19日に対面で行われた小金井特別支援学校における理解推進事業の取組研修には、44名の方が参加されました。そのうち、保育園・幼稚園・子ども園から26名、学校・学童保育から6名、発達支援・福祉関係機関から8名、そのほかの関係機関から4名が参加されました。こちらについては、この後、感想等、御報告をさせていただきます。

2つ目が、8月18日から、録画配信される、発達や子どもの気持ちに合わせた着替えの支援に関する研修が、きらりの通園職員によって行われます。

さらに、関係機関や保護者の方向けとして、準備が整い次第、紙面講座「きらきらレポート」を配布する予定です。

裏面を御覧ください。

きらりを利用されている保護者の方向け学習会として、9月28日には、対面でペアレントトレーニングのエッセンスを盛り込んだ内容の学習会を予定しております。また、通園の保護者の方向け学習会、こちらは内容を変更予定です。

そのほかにも、例年同様、前期後期、それぞれ幼児・学齢版のペアレントトレーニングを現在実施しているところです。

さらに、ペアレントトレーニングおひさしぶりフォローアップ会も実施しております。

続きまして、資料2-2を御覧ください。

7月19日に行われた研修のアンケートを一部抜粋したものを載せております。

講演内容につきましては、

- 最近の支援学校の状況や取組についてよく分かりました。
- 副籍交流について、理解推進事業についてなど、実際に行われている詳細な内容を知る機会がなかったため、とても参考になる講演内容でした。
- 副籍交流については、知らなかったのが、よい面と大変であろう点が、私なりに感じることができました。
- 仕組みや定義、概念から理解することができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。

○保護者の方からの相談があった際に、とても参考になり、活用できる分かりやすい内容でした。

○体験学習を交えて分かりやすく簡潔にまとまっていてよかった。

○普段聞けない内容だったので参考になりました。

○特別支援学校ではどのようなことが行われているのか全く分からなかったのですが、とても勉強になりました。また、実際に言葉をイメージして絵を完成させてみて、伝えることの難しさを強く感じることができました。

○分かりやすく楽しかったです。

当日は、校内見学もさせていただきました。

○初めて詳しく見学出てきたため、環境設定を学べた。

○充実した設備で感心しました。

○とても参考になった。環境の大切さを感じた。

○とても細やかにクラス分けと指導をされていることが分かりました。

○少人数でクラスが編成されており、一人一人にしっかりと向き合うことのできる環境に感銘を受けました。

○お忙しい中お時間を設定していただいたこと、ありがたかったです。コロナ禍で学校公開にも参加できない状況が続いており、現在の子供たちの環境を知ることのできる機会をいただけたこと、ありがたかったです。

○支援学校ならではの工夫や取組が見えたのでよかったです。

○細かい部分まで配慮がなされていて参考になった。

○新しくなった支援学校を見学したかったので、機会をつくっていただいてよかったです。

○初めて見学をさせていただいた校内は、とても設備が整っていて、また配慮が行き届いていて、素晴らしい環境であることを実感いたしました。

○少し暑かったですがゆっくりと見学する時間があり、とてもよかったです。

以上のようなアンケートをいただいております。御参加いただいた方、どうもありがとうございました。

報告は以上です。

◎会長 ありがとうございました。

それでは、今の点で御質問等ございましたらお願いいたします。

◎委員 参加された関係者の振り分けを見てたんですけれども、多くの方が保育園・幼稚園・子ども園の関係者の方でいらっしゃると思うんですが、例えば、こういう集まりに来てくださる方というのは、大体決まったところだったり、関係をもっているようなところだったりするところが多いかなと思うんですね。

なので、大体でいいんですが、この中でどれぐらいの割合の園の方が、例えば、訪問しているところだったり、そういう関係がある事業者なのかなというのはちょっと疑問に思いました。

◎**会長** おおよそでもお分かりになりますか。

◎**センター長** どのことを関係と考えるかが難しく、巡回相談ですとか、何かの訪問といったことがある園が多いとも一概に言えないような感想です。研修の内容によって、少し御都合もあるのかなと思いますので、同じ園の先生方がまとまって申込みされるときもあったんですね。なので、少し皆さん御都合にも左右されてしまったかなと思うような研修もございました。

市内の園というところで言うと、そんなに偏りはないかなとは思ってはおりますが、ただ、興味を持ちやすい方がいらっしゃるところは毎回のように申し込まれる方がいらっしゃるというのも、事実あります。

◎**委員** ちなみに、この関係各所への募集していますよという宣伝じゃないですけど、そういう方法は、ファクスとかで直接なのでしょうか。

◎**センター長** 御案内を作成して、郵送させていただいております。

◎**会長** よろしいですか。

◎**委員** ありがとうございます。

◎**会長** 今のところに関係してなんですけれども、一般市民向けの講演会、この実施についての周知というのはどんな方法でしょうか。確認のために、説明していただけますか。

◎**センター長** 一般市民向けの講演会は、チラシ、案内を紙で作成しまして、そちらを関係機関に配布する。あとは、ホームページに掲載をする。それに伴って、ツイッターにも載るような形にしている。あと、市報のほうに掲載されるという形を取っております。

◎**会長** ありがとうございます。ツイッターというのはどういうものなんですか。

◎**センター長** ホームページの掲載に連動して、小金井市さんのほうで設定をさせていただいているものになります。

◎**会長** そういうもので、一般市民向けもしているということなんですね。

◎**センター長** そうです。

◎**会長** 分かりました。

もう1点、アンケートのことなんですけれども、確認というか、私たちのこの協議会の会議録を見てくださいっている方がいらっしゃる。その中で、副籍交流というのがどういうものなのか、もしかしたらよく分からない方もいらっしゃるかもしれないので、あえてここで説明していただけるとありがたいんですけど、いかがでしょうか。副籍交流ってどういうことなんですかって聞かれたら、どう答えますか。

◎**委員** うちが、今、特別支援学校に通っていて、副籍交流をしている状態なんですけれども、特別支援学校に籍を置いている子が、もともとの市の小学校の、自分の学区があったところ、その学区の学校にも籍を置くという感じで、もともとの自分の地元の小学校にもクラスの一人として籍を置いているし、特別支援学校のクラスにも通っているという状態で、どちらのクラスの子供たちとも交流を持つみたいなの、ざっくり言うとそんな感じ。

学校だよりを交換したりだとか、そのお子さんとか御家庭の状況によって変化するんですけ

れども、授業に出てみるとか、あと、行事に参加してみると、そういう交流を持つという状態が副籍交流。

うちの家も直接交流という、直接授業に出たりとか給食を一緒に食べたりとかはしていなくて、おたよりの交換をしていますという状態で、副籍交流を持っています。一応、学区が一小だったので、一小の2年生のクラスにも籍を置いていて、特別支援学校の2年生のクラスにも通っていますという状態です。不足があったら誰か補足していただければと思います。

◎**会長** 副籍交流のいろんな形があろうかと思います。逆に、例えば一小の子が行くということもあるんですか。

◎**委員** それはあんまりないんですけど、ビデオを送り合うという、例えばこういう行事をやりましたよとか、こういう授業を受けていますよという、コロナ禍だったのもあるんですが、お互いの授業風景を送り合うみたいな交流はしていました。

◎**会長** 分かりました。いろんな形の交流があるということですね。ありがとうございます。

実際、私、一小と二小、南小で校長をしていましたので、いろんな形の交流があるということとは分かっていたんですけども、あえてお話しさせていただきました。ありがとうございます。

では、次にいきたいと思います。

続きまして、ペアレントトレーニングおひさしぶりフォローアップ、とても楽しそうな会なんですけれども、これについての説明をお願いいたします。

◎**事務局** それでは、資料3を御覧ください。

ペアレントトレーニングなんですけれども、年間4回、もしくは5回、開催しております。まず、こちらのほうの成果と保護者の方の情報等を御報告いたします。

まず、受講後の変化なんですけれども、怒ることが減ったり、ロールプレイでは、親役、子供役、それぞれ体験することで、改めて子供の気持ちを理解することができた。さらに、学んだ内容をお父様と共有されたことで、褒めることを意識したり協力的になり、笑顔が増え、その結果、今までより親子関係が少しよくなった、穏やかに過ごせるようになったなどのお声がありました。

また、当たり前なことでも、褒めることを学び、実践することで、子供たちの変化を実感された方々も多くいらっしゃいました。

保護者の方からは、学んだことを忘れてしまう。また受講したい。フォローアップの機会が欲しいとの声が複数寄せられていました。

講師のほうも、ペアトレの効果と必要性を実感しています。

例えば、多くの保護者が、受講前は子供のことを怒ることで子供の行動を変えようとしていた。そうすると、保護者の方は、なぜかいつも自分が怒ってばかりなんだなとよく悩まれていました。

しかし、この学びを通して、実際に怒る必要がある状況はそう多くはなく、むしろ褒める行

動が多くあること。ハードルを下げて考え、穏やかに分かりやすく指示を出すことで子育てが少し楽になり、親子関係がよくなる様子をたくさん見てきました。

しかし、3か月間の講座だけでは日々の生活に追われ、受講前の状態に戻りやすいという課題があり、そのためにもフォローアップの機会が必要だと感じていました。

今回は、おひさしぶりフォローアップ会と名づけて開催をいたしました。こちらの経緯ですけれども、ペアレントトレーニング講座を始めてから約6年が経過し、今お伝えしたような受講者の方から要望や、講師の考えを基に、受講者のフォローや情報共有の場が必要であると考えたためです。次年度以降につきましては、今回の実施結果を踏まえて検討していく予定です。

フォローアップ会の目的は、これまでのペアトレの学びをもう一度復習し、また、受けられた方同士でお話をする場を設けることでした。

対象は、学んでから少し御自身で実践していただく機会を設けたかったので、受講を終えてから1年以上経過している方といたしました。申込み状況はこちらの表にあるとおりです。御案内した対象者は、当時、学齢版・幼児版を受講された方、計76名でした。そのうち、お申込みいただいた方は16名、申込みはされませんでした。近況報告など御連絡があった方は5名でした。結果、お申込みいただいた方全員が、A日程、C日程、D日程、3日のいずれか1日に御参加される予定で、今進めております。

最後に、先月1回目を実施しましたので、その様子や参加者同士の感想を御報告いたします。

ペアレントトレーニングについて、案内があるまで実は内容を忘れていた方、何となく覚えていた方、実践中の方々など様々でした。

今回も講義の中でロールプレイを行ったんですけれども、例えば、子供に「早く手紙を出して」怒りながら伝えると、子供は、内容よりも怒られたことしか伝わらないんだななど、改めて気づいたり、そのほかにも、こういう場面ではどのような技法を使えばよいのか再確認する場となりました。

また、講師から褒められてうれしかったとの感想もあり、保護者の方は、日常の子育ての中ではなかなかほかの人から褒められる機会が少ないため、この場が貴重なものであると感じられました。

そして、お子さんが大きくなり、当時習った方法が合わなくなったという御報告もあり、改めてアップデートする意味でも開催する意味があったと感じております。

参加者同士が気持ちを共有、共感したり、ポジティブなフィードバックや情報交換ができ、とても有意義な時間となりました。

報告は以上です。

◎会長 ありがとうございます。

この点に関してはいかがでしょうか。感想でも構いませんが。

じゃあ、また私のほうから。この会議、説明をお願いしますといったときに、楽しそうな会ですねというふうに言ったんですけれども、頂いた資料で、ポジティブなフィードバックがで

きたというのは、とてもよかったのかなと思っています。研修で学んで、それを実施、御自身でやってみて、さらにそれを振り返るということは、次の新しいステップ、子供に対するようなことにつながる、まさに教育のサイクルに合っているなというふうに思っています。

私、特別活動ということはずっとやっているんですけども、子供が主体的に、または、保護者もそうなんですけれども、主体的に動くというのは、こういう活動の流れがとても大事なんだなというふうに思います。研修はしっ放しではなくて、やったことを振り返って、新たに繋げていくということ、本当にうまくできてよかったなと感じました。

以上です。

◎委員 私もおひさしぶりフォローアップ会というのを申し込ませていただいて、2月に参加をすることになっているので、楽しみにしているところなんですけれども、今、やっぱりおっしゃっていたように、幼稚園の頃に学んだペアレントトレーニングの手法、手法というのは同じだけれども、やっぱり子供の年齢が上がるにつれて、その対応の仕方とか内容が変わってくるので、やっぱりこういうものがあって、そのときの学年に合ったもので、先生からまた教えていただいたり、共有できたりという場はすごくありがたいなと思って、早速申し込ませていただきました。この1回だけではなくて、また今後もこういう会が続いていくといいなと思っています。

◎会長 ありがとうございます。

情報交換というようなことでは、例えば、たけのこ会などの会議などでもよくそういうことはなさっているかと思うんですけども、いかがですか。子供に対する対応とか。

◎委員 たけのこ会はこの夏休みに入った2か月間はお休みになっていて、このペアレントトレーニングに参加されたというお話はまだ聞いていないんですけども、私もすごく参加したいんですけども、私、パートを午前中してまして、時間がどうしても合わずに、できれば曜日を増やしていただきたいなというのと、あと、子供の対応で、こんなときどうしている？というのは、世間話じゃないですけど、そういう感じで、やっぱり皆さん疲れているような感じがすね。きりりには夏休みがないので、通常、平日も通っているんですけど、例えばごきょうだいがいると、お姉ちゃんは全部お休みで、ちょっと行き渋りがあったりとか、いろいろと悩みがそれぞれ、夏休みは夏休みであるのかなと思います。

◎会長 ありがとうございます。

◎委員 感想というか、もともと僕自身は知的障害の分野でずっと働いてきて、今この職場についているんですけども、知的障害の方々だと、保護者さんとの人間関係がかなりメインになってくるのかなと思っています、ちょっとこういう言い方は不適切かもしれないんですけども、年を取れば取るほど、保護者さんが、外側を向いてくれているタイプの保護者さんだったらいいんですけど、やっぱり自分の責任、負い目を感じたりですとか、生きづらさとか、分かりにくいとか、これはさっきの一般相談とかにも話がつながってくるんですけども、そういったところ、年を取れば取るほどこじらせてしまうのかなという印象がありまして、なので、知的

障害だけじゃなく、発達障害とかも含めてですけれども、こういったペアレントトレーニングとかを通じて、なるべく保護者さんもまだ若くて体力のあるうちに、子供たちがこれからいろいろ学んで成長していく段階で、こういったことをしてもらえるのはすごくありがたいのかなと思います。

以上です。

◎会長 ありがとうございます。

保護者との連携というのも本当に大事だなというふうに思うんですけれども、幼稚園なんかでどうでしょうか、保護者で言うと、外国籍の方とか、いろんな形の保護者の方、今とても気になっているのは、御両親とも保護者が外国籍の方、または片方だけ、それから、日本語がよく分かる方とそうでない方とか、いろいろいらっしゃると思うんですけれども、幼稚園なんかで、いかがでしょうね。

◎委員 今現在、御両親とも海外、外国籍の方で、お父様とお母様も別々の国でいらっしゃるんですけど、共通言語は英語で話す。お子さんも英語で、基本的には生活されているんですが、まだ、未就園児から上がってきて、まだ年少さんの学年の子供たちは、英語も日本語も、どちらも同時に身につけなければならないので、日本人でそのまま学ぶ言葉の発達のスピードよりも、両方が中途半端に遅れてしまう。英語が分かる職員だったり、こちらと話しても、そこを理解しているのか理解していないのか、ちょっと分からなかったりとか、細かな生活習慣が日本と大分かけ離れているお国の方ですと、やはりその部分も、職員だけでフォローするのはとても難しく、やはりお母様の気持ちに立って、より詳しく、寄り添いながら説明しなければならないときにとても助けられているのは、保護者同士の連携、助け合いで、たくさんのお母さんがいる中で、たくさん職歴をお持ちのお母さんもいらっしゃるので、中には通訳をされていたり、外資系の会社で働かれていたり、とても英語に長けている方がいらっしゃるから、同時通訳をしていただいたり、やはり、こちらとしては一般向けに日本語でお話をしなければならない会議について、なかなか同時通訳とかできないので、横に座ってくださって、細かなことをお伝えしていただいたり、そういう温かい、こちらがお願いしなくても、そっとやってくださる方がいらっしゃって、とても助かっています。

ただ、毎日毎日のことですから、どんなことが困ることがあるかというのは、そのときに起きるんですけれども、今はとても恵まれている時代なので、アプリですとか自動翻訳で、アプリ上で英語に翻訳して、メッセージやショートメールを伝えてくれる、そういったツールも随分発達していますから、そこは助けられています、毎日苦労しています。

◎会長 ありがとうございます。

保育園のほうはいかがでしょう。

◎委員 今のお話、本当にすごくよく分かる形ですね。うちも、御両親ともに外国籍の方もいらっしゃるし、片方が日本人、片方が外国人という方もいらっしゃったりするんですけれども、同じようにスマホの翻訳機能を使いながら、そこにしゃべって、こうやって見せたりというこ

とをしたりするんですが、細かいニュアンス、訳されたこれが合っているのかどうかも分からないこととかがあって。

◎委員 用語とか。

◎委員 そうそう。前に、全然違うふうに訳されて伝わっていて、向こうが大笑いしていて、何て言っていたんだらうと、全然違うふうに伝わっちゃっていたこととかがあったりとかもしたんですけど、同じように、外資系で働かされている保護者の方に、ちょっとお願いできますかって通訳みたいにしてもらって、私が言っていることをお父様に伝えてもらったりということもあったんですけど、それは、本当にたまたま、偶然お迎えの時間が一緒になったからそれがかなっただけで、あらかじめ、そのお父さんの仕事の時間を取ってしまうこともできないので、そういうことがあったりとかしているんですけど、幸い、今うちの保育園、職員に帰国子女の、もともと通訳していた方が保育士でいるので、すごくそこは助かっていて、御両親ともに外国籍のお子さんもその先生を頼って、日本語も話せるけど、やっぱりその子の本当に伝えたいことがうまく日本語で出てこなかったりとか、スピード感を持って話したいときは英語のほうが早いしというときには、その職員を頼って、僕は今こう思っているんだという内容をば一っと英語で話したりしているので、グローバルであることの大切さって、すごい感じるなと思っています。

あとは、フォローアップの感想というか、私も拝見させていただいて、やっぱりそこで学んでいるとき、定期的に月4回とかのコースの中で学んでいるときというのは、すごくそれを意識してお子さんに対しても向き合っていくけど、いざ終わってしまっって、スパンが空いてしまうと、やっぱり忘れてしまったり、抜けてしまったりということが、人間、誰でもあると思うんですけども、その中で、こうやってまた振り返ってみませんかという機会ってすごくすてきだなと思ったのと、終わってしまう方は終わってしまう方で、もちろんいいと思うんですが、もう一回やってほしいなとアンテナを張っていらっしゃる保護者の方というのもたくさんいると思うので、その中でこういうふうにしてくださるのはすごくありがたいなと思ったのと、先ほどおっしゃられていたみたいに、そのときはその対応でよかったけど、成長していくにつれて、それでは通用しなくなるというか、合わなくなってくるということの、いろんな場面が出てくると思うし、そのお子さんも、どんどん成長すれば、お子さんなりの思いというのがまた違ったふうにあると思うので、すごくすてきだなと思って見させていただきました。ありがとうございます。

◎会長 ありがとうございます。

それでは、次のところに行かせていただきます。

続きまして、令和5年度巡回相談の実施状況について、説明をお願いいたします。

◎センター長 資料4を御覧ください。令和5年度巡回相談の実施状況について、御報告いたします。

まず、きらきらサポートについて御報告します。今年度に入り、昨年度の実施園より御協力

いただいて、2022年度の報告書を完成させました。今年度の申込み書類と、出来上がった報告書を市内の幼稚園、民間認可保育園、子ども園、全47か所にお送りしました。

きらきらサポートは開始してから5年目に当たりますが、今年度、5月31日の締切りまでに11園の保育園・幼稚園・子ども園より応募をいただきました。うち1園が初めての応募、4園が2回目、4回目、5回目という園も4園ありました。

これまでの実施回数や昨年度の実施状況等を考慮して実施園を絞り込み、これまでの状況がほぼ等しい2園については、抽せんを行って実施する8園を決定いたしました。

これまで同様に、実施開始前にスタッフが訪問して、実際に開始してから使用する書類や手順等の御説明と様式をお渡ししました。その後、訪問前に先生方に書類を御記入いただき、8園全てについて、1回目の訪問を終えたところです。

また、これまで応募したことはないものの、来年度の応募に向けて取組の内容や手順等を知りたいと関心を持って御連絡をくださった園がありました。訪問して事業の概要を御説明したのですが、多くの先生方がお時間をつくって集まってくださいました。今後とも、園のニーズにお応えできるよう事業を継続するとともに、訪問する心理士のさらなるスキルアップに努めていきたいと考えております。

次に、学童保育所への巡回相談についてです。例年どおり、全10か所について、年3回実施する予定を組みました。現在、全所について1回ずつ終了したところです。職員の方たちの研修である全体会を10月26日に予定しております。

内容については、学童保育所の職員の方々の御都合を伺い、先日、保護者の方とどのように情報を共有していくかということテーマに実施する予定で進めております。

巡回相談についての御報告は以上です。

◎会長 ありがとうございます。

この点についてはいかがでしょうか。

私のほうから。巡回相談の心理士の方というのは、これは毎回同じ方ですか。きらりの職員の方でしょうか。

◎センター長 きらりで、心理士として、巡回相談だけを行っている心理士は、現在はおりません。時にそういう心理士がいてもおかしくないとは思いますが、現在は、そのほか相談ですとか、ほかの事業にも関わっている職員が、数名、巡回相談の担当として、何か所かに手分けして伺っております。なので、1園だけ担当している職員もあれば、2園担当している職員もあるという状況です。

◎会長 ありがとうございます。

この件に関してはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、6番目のところ、記録の入れ間違いということでもありますけれども、この件に関してお願いいたします。

◎センター長 今年6月に記録の入れ間違い事故が、児童発達支援（通園）で発生しました。

同時期にコピーの間違いも確認されました。大変申し訳ございませんでした。

内容を児童発達管理責任者から御報告させていただきます。

◎事務局 記録の入れ間違いについて御報告いたします。

6月16日に、お子様のソフトケースに入ったサービス提供記録とシール帳を、別のお子様のかばんに入れてお返ししてしまったという事故が発生しました。

当日は、サービス提供記録への記載が、4名分、通常より遅くなっていました。降園時間が近づいていたため、先に記入を終えている分の持ちものやサービス提供記録を確認して、かばんに入れました。その後、残りのサービス提供記録を書き終えた4名分を、シール帳の入ったソフトケースに入れて、通常行っている別の職員が確認する手順を踏まずに、それぞれのかばんに入れました。その際、1名分について、別のお子さんのソフトケースと一緒に入れてしまいました。

当日、降園直後に2つのソフトケースが入っていたお子様の保護者様より電話連絡をいただき、間違いに気づきました。職員が御自宅へ引き取りに伺い、謝罪、誤って別のほうに渡してしまった保護者様の御自宅に伺い、お渡しし、謝罪させていただきました。

今後の再発防止策として、持ちもの確認の手順は、急いでいる場合でも省かずに行う、御家族が持ちもの確認の意識を高めるため、全ての持ちものを確認したことをボードでのチェックにより行うことを実行しています。

この事故が発生した後、6月27日に1名の方について、昨年8月1日から5日分のサービス提供記録の裏面、8月4日と5日分に、ほかの方の内容がコピーされたものをお渡ししていた事故が起きていたことが判明しました。誤って、裏面にコピーされた内容の当事者である保護者様には謝罪し、お手元の該当する期間のコピーを御確認いただき、両面とも御本人のものであることが分かりました。

サービス提供記録は、保護者の皆様に御記入いただいた後、きらりて両面印刷の設定でコピーをして、御本人にお返ししているところですが、今回、片面がほかの方の内容となっていた原因としては、コピー機が片面の原稿を読み取った後、紙詰まりなどが生じたことにより停止し、再開したときに、印字前に読み取ったデータが残った状態で次の方の用紙の原稿を読み取ってしまったことから、それが両面印刷されたものと思われます。

また、書類をお返しするソフトケースに入れる際には、入れ間違いがないか確認しておりますが、二つ折りにした表面の記名のみを確認していたため、裏面がほかの方の内容であることに気づきませんでした。

再発防止として、コピーした後は、表面、裏面が正しくコピーされているか直後に確認するとともに、ソフトケースに入れる際の入れ間違い確認でも、表面、裏面の両方を確認するようにいたしました。必ず2回チェックすることで、同じ事故を起こさないよう気をつけていきます。

以上、入れ間違いについての報告となります。

◎**会長** ありがとうございました。

再発防止に向けての対策もしっかりと考えていらっしゃるようですので、どうぞよろしくお願いたします。

どうぞ感想等、ございますでしょうか。

では、続きまして、次第の3、今後の開催日程についてです。

事務局よりお願いたします。

◎**事務局** 次回の開催日程についてでございます。今回は11月9日の木曜日、午前10時から開催を予定しております。

報告は以上です。

◎**会長** その他のところでは、本日の次第の項目は以上で終わったんですけれども、ありますか。

◎**委員** 終わりかけのところでごめんなさいなんですけれども、きりりさんのほうには既に御相談させていただいたケースではあるんですが、ちょっと確認をさせていただきたくて、僕が市民の方と接している中で、年度更新されている、1年単位の年度更新されているサービスについてなんですけれども、次年度、その方が、昔、きりりさんを直接利用してから次年度利用希望がないということで、処遇というか、一度サービス終了の扱いになっていたケースで、ただ、保護者さんは実際にサービスを次年度利用希望しなかったということをおぼろげに覚えていたみたいで、今現在のサービスは続いていると思われていたケースがありまして、やっぱり自分のほうでも考えてみたところ、その市民の方も言われてたのが、サービスの開始はそうだけど、終了についての明確な説明がもう少し欲しいという要望があったんですけれども、どうやって対応されているのかなと思ひまして。

◎**センター長** きりりが定期的に利用するサービスが、実績報告で行われた通園ですとか、あと、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、あとは外来通園、親子通園が当たると言うんですけれども、そのお申込みに関して、年度ごとでお願いをしております。

例えば、児童発達支援から放課後等デイサービス等、年齢で自然と区切れるものは親御さんにとっても分かりやすいとは思いますが、サービスの内容によっては、1年ごとという理解がされにくかったものもあったかと思ひます。今、申込みの用紙のほうに、また来年度も御希望されるようでしたら、来年度も御希望の申請が必要ですよということは明記させていただいて、その御案内をさせていただいているところです。

なので、それでもやはり、どういう手順で来年度の支援の申込みがあるかというのが分かりにくい方もいらっしゃると思うので、そこはまず、なかなか今、直接相談に来られてない方にお伝えする機会としては、市報ですとか、そういう形で募集期間が確認できるような形にはなってしまうんですが、そこで御案内することと、今相談等にいらしている方については、そこを丁寧に御説明させていただこうと思ひております。

◎**委員** ありがとうございます。

◎会長 よろしいですか。

ほかには何かございますか。よろしいですか。

それでは、これで本日の日程は全て終了ということになりました。本日いただいた御意見などを基に、また事務局のほうで調整をお願いいたします。

次回は、11月9日の木曜日、10時からということですので、どうぞよろしくお願いたします。

本日は以上で閉会といたします。ありがとうございました。

(午前11時35分閉会)